



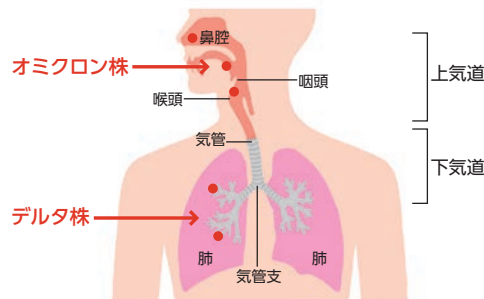
健康ワンポイントアドバイス

子どもの新型コロナウイルス感染症

第6波のオミクロン株による新規感染者の増加に伴い、子どもの患者数も増加し、市内や近隣市でも新型コロナウイルス感染症による保育園の休園、学級閉鎖がみられます。これまでの知見により、小児患者は比較的軽症であることや、感染伝播については学校や保育所でのクラスター報告も散見されますが、依然として保護者や同居の家族からの感染である場合が多数を占めています。

今回流行のオミクロン株は、のどに近いところで増殖する、いわゆる上気道炎をおこしやすい(デルタ株は下気道炎をおこしやすい)という特徴があり、普通の風邪とほぼ同様の症状が出現します。

風邪は、風邪ウイルスによる急性上気道炎のことで、鼻・咳・のどの症状が出ます。発熱もしますが10～20%程度です。それに対してオミクロン株は、発熱の頻度が70～80%と高率です。オミクロン株の方が発熱しやすいといえます。同居家族と子どもが同時期に発熱を伴う風邪症状がある場合は、コロナ感染を疑う



状況といえます。

子どもにコロナ感染が疑われる症状が出た場合には、下記に留意して対応してください。

- 症状が軽症であれば、安静にして水分をよく取り、対症療法(解熱剤、鎮咳去痰剤など)を行ってください。
- 発熱の持続や呼吸状態の悪化(多呼吸、喘鳴など)がみられた場合や、生後3か月未満の乳児が発熱した場合は、医療機関に連絡した上で速やかに受診してください。

子どもをコロナ感染から守るために、子どもと同居の家族は、日々の感染予防(手洗い・うがい・3密を避ける)に努めるとともに、3回目のコロナワクチン接種をお願いします。

【旭匠瑤医師会】